

木材利用の環境貢献

Contributions of Wood Utilization toward Environmental Sustainability

平成 23年 3月19日 14:30~18:00

京都大学百周年記念ホール

14:30 挨拶

14:40-15:10

「地球環境を支える木材利用」 東京大学 准教授 井上雅文氏

15:10-15:40

「環境負荷を見える化する」 東京農工大学 教授 服部順昭氏

15:50-16:20

「バイオリファイナリー産業の将来像」(財)地球環境産業技術研究機構(RITE) 理事グループリーダー 湯川英明氏

16:20-16:50

「バイオマス産業としての製紙産業」 日本製紙(株) 研究開発本部長 南里泰徳氏

17:00-17:50

パネル討論会"木材利用の環境貢献" 司会:京都大学 教授 矢野浩之氏

参加無料



Since 1955

主催:日本木材学会 後援:日本森林学会 認定NPO法人才の木 (社)日本木材加工技術協会



第61回日本木材学会大会

2011年3月18日金-20日旬

大会の最新情報は http://www.jwrs.org/wood2011/index.html をご覧下さい。

公開シンポジウム

地球上に存在するバイオマス資源の99.9%は植物です。また、その92-95%は樹木や竹などの木質資源だと言われています。本シンポジウムでは、身近で豊富な木質資源のこれからの持続的かつ多面的な利用について、その環境貢献を軸に議論いたします。シンポジウム前半では、林業政策、エネルギー・資源収支、バイオリファイナリーといった観点からご講演いただき、後半は、それに基づき、演者を囲んでパネルディスカッションを行います。炭酸ガス吸収固定・持続型資源である木材のさらなる有効利用に対する期待が高まる中で、我々の進路を改めて考えてみるよい機会になればと思っています。

講師のプロフィール



東京大学アジア生物資源環境研究センター准教授

平成5年京都大学大学院博士課程林産工学専攻修了。京都大学木質科学研究所助手などを経て、平成17年から現職。この間、平成19年から内閣府に出向し、上席政策調査官として環境・エネルギー行政を担当。専門は、環境材料設計学、木材加工学など。共著に、「解説・地球環境問題と木材」「ブルーバックス木材なんでも小辞典」「ウッディーライフを楽しむ101のヒント」など。受賞に、暮らしの中の木の椅子展「最優秀部門賞」など。



服部順昭 (はっとり のぶあき) 東京農工大学大学院農学研究院教授

昭和50年京都大学大学院農学研究科林 産工学専攻修了。東京芝浦電気(株)、京 都大学助手などを経て、平成11年から 現職。専門は、木材の機械加工、レーザー 加工、木質材料のライフサイクルアセス



湯川英明 (ゆかわ ひであき) (財)地球環境産業技術研究機構 理事 バイオ研究グループ グループリーダー

昭和46年東京大学農学部農芸化学科卒業。昭和58年東京大学農学博士。平成5年から財団法人地球環境産業技術研究機構微生物分子機能研究室(現バイオ研究グループ)室長。奈良先端科学技術大学院大学客員教授。専門は、分子生物学、微生物利用学、酵素化学。受賞に、平成3年バイオインダストリー協会賞、平成4年化学バイオつくば賞、平成9年日本農芸化学会農芸化学技術賞、平成20年第18回日経地球環境技術賞大賞。



南里泰徳 (なんり やすのり) 日本製紙(株) 取締役研究開発本部長

昭和51年京都大学工学部高分子化学科卒業。平成7年カナダMcGill大学工学部化学工学科修士課程修了。平成20年京都大学農学博士。山陽国策パルプ(現日本製紙)商品開発研究所、技術研究所、(株)日本紙パルプ研究所(出向)常務取締役所長などを経て、平成22年から現職。受賞に、印刷学会朝陽賞。

木材学会年次大会オーガナイズドセッション「バイオリファイナリー」 3月18日(終日) / 20日(午前)

木材を始めとする持続可能なバイオマス資源から、様々なフューエル、ケミカル、マテリアルを低環境負荷で 効率よく製造するリファイナリー技術について世界中で研究が活発化しています。今回の日本木材学会年次 大会では、木材のバイオリファイナーに関わる最新の研究発表を集約したオーガナイズドセッション「バイオ リファイナリー」を企画しました。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

(本オーガナイズドセッションには、学会参加登録(有料)が必要です。http://www.jwrs.org/wood2011/registration.html)